

# 検

# 証

## 20年度の 内子町財政を振り返る

平成20年度決算が12月議会定例会で承認されました。

20年度の実質収支は約3億8千7百万円の赤字です。これは歳出の抑制や町債の繰上償還を行い、財政の健全化を目指したことが大きな要因と考えられます。

今後は、政権交代による地方交付税の見直しや国からの補助金などの減少、景気低迷による町税の減収などが予想されます。最少の経費で最大の効果を上げられるように、財政運営に取り組んでいきます。



町民1人当りに  
使われたお金



50万3,457円

一般会計歳出総額 97億1千219万円  
人口1万9千291人(21年3月31日現在)

### 検証 一般会計 歳入

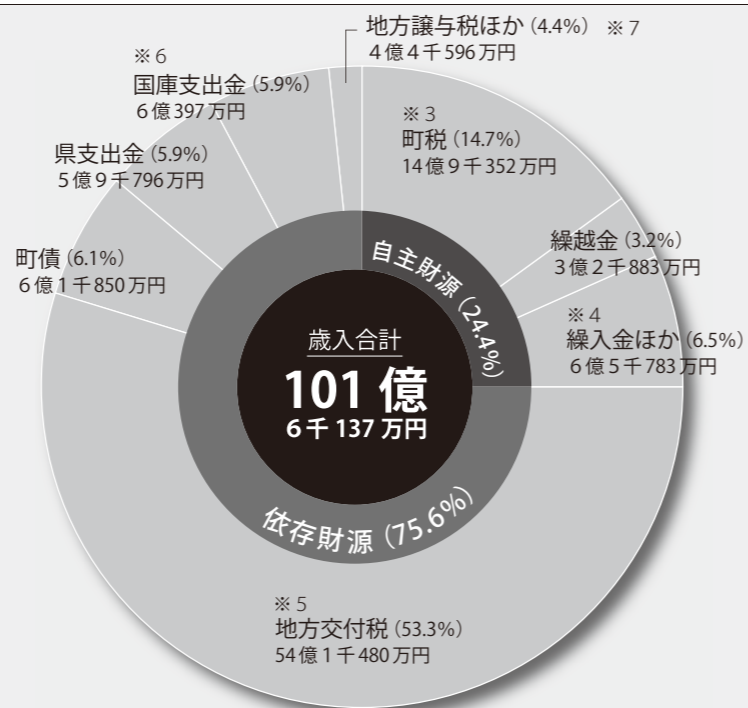
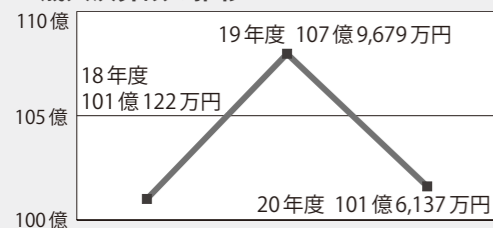
#### 02 依存財源が約7割

歳入合計 101億6千137万円

一般会計の歳入は、前年度に比べて6億3千541万円の減額となりました。これは景気低迷による町税の減少や、普通建設事業が減り国庫支出金・県支出金が大幅に減少したことが大きな要因と考えられます。

歳入のうち、町税などでまかなう自主財源は24億8千18万円(24.4%)、国や県に頼った依存財源は76億8千119万円(75.6%)となっています。

#### ■歳入決算額の推移



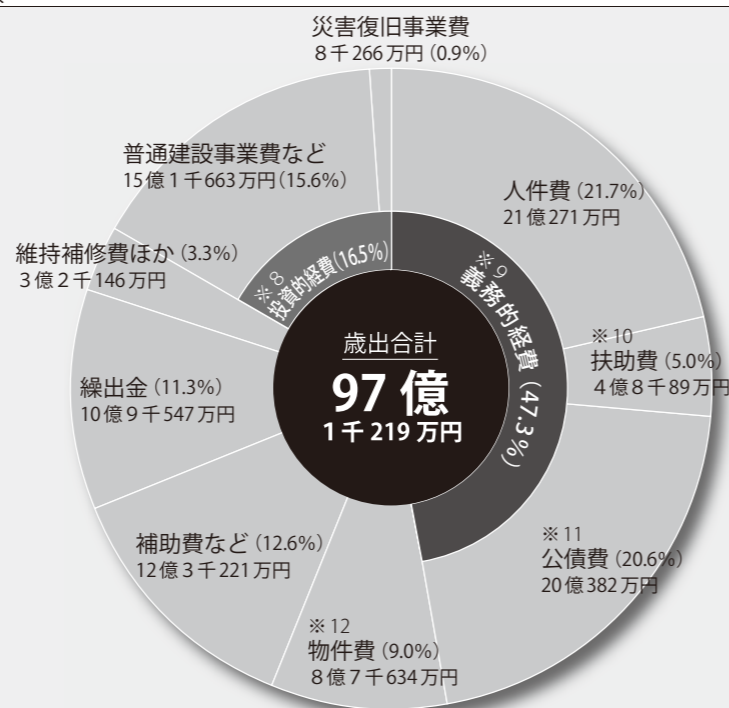
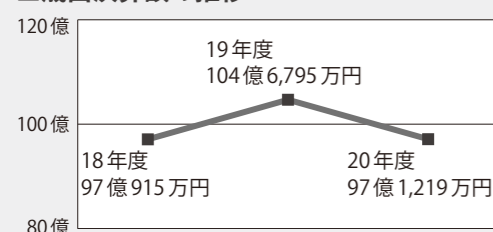
### 検証 一般会計 歳出

#### 03 前年度に比べて7億5千576万円の減額

歳出合計 97億1千219万円

一般会計の歳出の内訳をみると、人件費・扶助費・公債費の「義務的経費」が45億9千740万円で、全体の47.3%を占めており、財政の硬直化が心配されます。このため、内子町行政改革集中改革プランに基づいて定員管理の適正化に取り組み、人件費の削減に努めています。また公債費は、繰上償還を行い、一定の削減効果を得ています。

#### ■歳出決算額の推移



### 検証 財政力指数

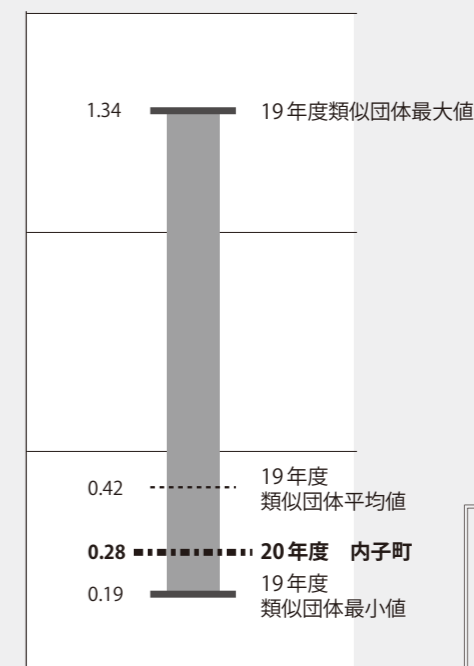
#### 01 自主財源の割合が低く、財政基盤弱い

20年度は、前年度と同じ0.28

財政力指数とは、収入と支出を国の基準に基づいて比べた指標で、過去3年間の平均値で示されます。財政力指数が1.0を上回る団体には地方交付税が支給されず、下回る団体には地方交付税が支給されます。この指数が高いほど、自主財源の割合が高く財政力があるといえます。

内子町の財政力指数は、全国の類似団体平均値と比べると0.14ポイント低く、県内市町の平均値と比べると0.18ポイント低くなっています。

今後さらに基幹産業の育成、定住促進、企業誘致などに取り組みながら町税の増加を目指し、財政力の強化に努めます。



19年度 全国市町村平均 0.55  
19年度 愛媛県市町平均 0.46